

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391200039		
法人名	有限会社 真和会		
事業所名	ファミリー倶楽部		
所在地	熊本県上天草市松島町合津1068番地1		
自己評価作成日	平成26年3月18日	評価結果市町村受理日	平成27年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205		
訪問調査日	平成27年4月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方は何らかの疾病をもたれているので、その疾病が悪化しないように体調管理や状態の把握には特に気をつけ、また、主治医との連絡が直ぐ取れるよう連携がとれているので、利用者の家族の方も安心していらっしゃいます。利用者の方にも家庭生活の継続のように食事時間にも会話しながら笑いが出る支援ができ、居心地の良い場所作りができています。また、利用者の方も自室より食堂で他の入居者の方とお喋りしながら、テレビを観られている時間が多く、また、開設時から行っています1日2回のラジオ体操等は、欠かさずの継続ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小鳥がさえずり、緑豊かな自然環境の中に事業所があります。利用者一人ひとりの笑顔とリビングにこだまするはずんだ声が、暮しの豊かさを表しています。スタッフと利用者の“ファミリー”として馴染んだ様子がうかがえます。介護計画の策定、ケアプランの立案、その実践が質の高いサービスの提供に繋がっているようです。この何気ない日々の暮しの豊かさを利用者のご家族にお知らせし、共に分かち合えるような「記録」のさらなる工夫を期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人が暮らしてきた生活を大切にし、その人らしい生活が送れるように理念をつくり、個々の日々の生活の支援を行っています。	朝礼時に読み上げ、日々の個別ケアの指針として確認しています。	マンネリ化が懸念され、個人の具体的な行動表現を取り入れた目標の確認を入れる等の改善が検討されています。周知徹底を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区公民館の大掃除参加、行事参加だけではなく、準備の手伝いも職員が参加し、交流を図っています。	地区の清掃活動やお祭りの準備手伝い等、積極的に参加されています。	玄関先の挨拶やおすそ分けのお返し等、できるところからの無理のない日常のお付き合いに繋がるといいですね。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして、認知症の理解をして頂くために活動しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催で、サービスの実際等や利用者様の状況、他の取り組み等を報告し、委員の方からはいろいろな意見を頂いたり、アドバイスをもらい、サービスの改善や向上に活かしています。	地区の区長さん、老人会の代表、行政の担当者、家族代表の参加で活発に取り組まれています。	報告と依頼に止まらず、事業所が抱える問題点を議題として提出できるよう、充実した会議の継続を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度やその他分からない事は、担当者の方に聞いたりして、また、推進会議に出席された職員の方から意見等が聞けます。	制度上の諸々の理解や、申請手続き、地域における介護情報等で密な連携がなされています。	利用者家族や地域の方々から出た要望を行政に相談し、日常的な地域活動に繋がられる連携を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等で学んできた事をみんなに周知し、取り組んでいます。また、身体や生命に危険が及ぶような時は、家族の方と話し合いの場を設け、また、同意書を作成し同意を得ています。	年間の研修会に参加し、日頃の実践から振り返り、質の向上に取り組まれています。	利用者の精神的な抑制が効かない行動がなぜ起きたのか、その原因を探ると共に常に検討していく姿勢の継続を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、ミーティング等の勉強会で学び、絶対ないように注意を払い、防止に努め、もちろん起こってもしません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングの勉強会や外部主催の研修会で、制度の理解をしてもらい、制度が必要な方には活用ができるような支援を心がけています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には利用者、家族等に入居に関しての説明をし、不安や疑問点を尋ねた上で、理解や納得して頂いてから契約を結んでいます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会は設けていませんが、面会時等日頃から不満や苦情を言えるような雰囲気にし、相談にのり、それらを運営に反映できるように努力しています。	月1回の利用料支払い時や面会の機会に、管理者が直接対応して意見を求められています。	褒めてあげたいこと、気持ちがホットしたこと、少し気になること等のアンケート用紙の工夫を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや職員の交流会で機会を設け、反映に活かしています。また、普段から遠慮なく意見を言える雰囲気作りにも努めています。	全体ミーティングや日々のケアカンファレンス、会話の中から話しやすい雰囲気づくりがなされています。	定期的な業務ミーティングとは別に、築かれた人間関係を基盤にスタッフが自ら参画し、若いスタッフや新人の発想を活かした意見が出るような場が充実するといいいですね。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいような環境整備ができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の法人内の研究発表会を設け、それに対し、自己研修やグループ研修の機会を作り、職員の育成や研修を受ける機会を確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回の同業者との勉強会を開催し、その時、お互いの活動報告や交流が得られ、開催を通じ、サービスの質を向上させていく取り組みに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の方から直接聞かれたり、また、利用者の方から聞かれない時は、行動や仕草で不安なこと、求めていることを観察し受け止める努力をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時の施設見学等から、家族の話を聴く機会をつくり、受けとめる努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談にこられる時は、直の入居希望がほとんどで、入居できる時は入居してもらおう事ができますが、その他は今利用できるサービスの紹介などを行ったりして、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者は大家族の中で、生活を共にしてるんだと考え、日々の暮らしを支えています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、些細なことでも今までなかった出来事や職員と楽しく会話されたことなどを話したりして、良い関係が築け、家族の方と一緒に支えていけるように努力しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人などには関係が途切れないように、ホームに案内したりして努力していますが、お互い高齢になり、難しくなっています。	馴染みの美容室利用や自宅訪問への支援がなされています。また、事業所自体が新たな馴染の場にもなっているようです。	利用者が目にしてきた風景や景色も馴染のものです。支援の継続を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は上手くできていますが、たまに口喧嘩が起こる場合があります。その時は孤立させないように話を聴き支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてもどうされているか、近況を電話で尋ねたり、家族に会ったりして付き合いを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時や散歩時、入居者のふとした言葉の中に新たな思いの発見をする時があります。そのような言葉や表情、仕草等を見逃さず、入居者の満足のいく生活に反映できるように努めています。	利用者の言葉や表情を読み取って、一人ひとりの意向をスタッフが把握して、その方に合わせたケアサービスが提供されています。	把握された利用者の特性をスタッフ全員に、周知徹底される取り組みを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には本人から、または家族から今までの経過や利用してこられたサービス機関から情報などで把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で一人ひとりの日々の生活を観察し、総合的に把握ができるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的な介護計画を作成し、それに基づいて、職員、家族等と話し合い、利用者本位の計画に作成ができるよう担当者を作り、全員で取り組み、ケアプランと介護計画が連動するよう努めています。	医師への毎日の身体状況の報告、医師からの指示、利用者家族からの意見、スタッフからのフィードバックが管理者を中心に検討され介護計画の見直しが進められています。	ご家族や看護師、介護職員が一堂に会する機会があれば、ご家族の理解もより深まるでしょう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や結果、気づき等の記録は残り、情報を共有しながら実践や介護計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の状況に応じて、母体の医院に入院して治療ができた、訪問看護の利用ができ、柔軟な支援ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問ボランティアなどの協力があったり、運営推進会議でのアドバイスで他の機関との協力ができ、地域での暮らしができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の納得が得られた主治医との連携が常にとれるようにできていて、適切な医療を受けられるような体制で支援しています。	利用者の意向に合わせ、適切な医療が受けられるように支援されています。専門医や認知症専門医、歯科の受診へも支援されています。	医療連携の必要性や健康管理について、利用者家族への理解が深まるような工夫を期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院との契約で看護師の訪問があり、日常の健康管理や医療活用の支援はできています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院された場合は、常に病院関係者との情報交換や相談したり、連携に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで	日頃より終末期のあり方を家族の方と話し合い、家族の意向にそえるように支援しています。	重度化指針に加え看取り指針を定め、利用者や利用者家族の意向にそえる支援がなされています。	利用者と利用者家族への状況変化の説明、意向確認、ケアプランの変更などが明確に区別して行われ、同意・承諾が記録として残されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の手順をつくり、全職員が慌てず対応できるよう全体ミーティング等で勉強しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施し、また、地域の方の緊急連絡網を作成し協力が得られるような協力体制を築いています。	消防署との年2回の訓練に加え、事業所独自の夜間火災を想定した訓練が年2回開催されています。	関連部署、ご協力頂く近所の方々への利用者情報、事業所が定めた避難手順が共有されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の尊厳やプライバシーを大切に して、対応に心掛けて気をつけ、また、記録 等の取扱いにも十分注意を払っています。	利用者本人が主役で自分自身の時間が保て るような支援がなされています。	今できていることに満足せず、新しい スタッフへ周知徹底できるような工夫 を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	押し付けの介護や自立を阻害するような介 護はしないように注意を払って行うよう話し 合って支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の方は自分のペースで生活リズム ができていますが、認知症が進行し自分で 生活リズムが作れない方には、1日のリス ムを把握し、サイクル作りを支援していま す。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	身だしなみなどは、できない人には支援を行 い、理容、美容等も本人の望む店にいける ように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	その人のできる範囲の手伝いをしてもらいな がら、楽しく食事ができるように配慮し、また食事中 も職員と利用者同士が会話しながら楽しい雰 囲気で食事が摂れ、また行事食提供の際には、そ の料理の説明により季節を感じて食べてもらっ ています。	栄養士が定めた献立メニュー、グループ事業 所との共同購入、事業所での直接調理で食 事の提供がなされています。魚や野菜の頂 きものには利用者が味付けをしたりするこ とも。一鉢追加の楽しみになっているよう です。	スタッフ各自の盛り付けを写真で見比 べて、盛り付けのレベルアップに繋げ るなど、「食事」を楽しむ工夫を期待し ます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通 じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	栄養士が立てた献立をもとに調理を行い、 摂取量も一人ひとりの状態に合わせた支 援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	自分でできる人は自分で歯磨きをしま ら、介助が必要な人は支援して毎食後必ず 口腔ケアをしています。義歯洗浄は職員が 丁寧に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立でできる人には転倒などの事故に気をつけ、支援が必要な人にはさりげなく声かけを行い、失敗がないような支援ができるよう努力しています。一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導しています。	昼はトイレ、夜はリハビリパンツ、またはリハビリパンツから布パンツへ変えるなどの自立への支援がなされています。	改善への取り組みが継続できるように、筋力の低下を防ぐような取り組みを合わせて期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックで個々の排便がスムーズにいくように支援し、頑固な時は主治医の指示のもとで下剤を服用してもらい、運動等で排便を促す支援も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの入浴パターンを把握し、個々の好みに応じた入浴の支援を行い、意思の表現がない人には職員が声かけを行い、入浴ができるようにし、また、疾患に応じ湯船の時間にも細心の注意を払い快適な入浴となるよう努めています。	週3回の個浴サービスが提供されています。また、季節湯や足浴も組み入れられたり、また希望者には好みの入浴剤を選ぶことも支援されています。	継続を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	みなさん自分が休みたいときには、自室に行かれベッドで休まれています。自分できない方にはその方の状況を見て休息できるように、自室への移動介助を行うなどして支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の処方把握して、変化時には主治医への連絡が取れるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな人には一緒に歌ったり、テーブル拭き、洗濯物干し・たたみなど、その人のできる事の役割をしてもらったりして、張り合いや喜びのある日々が送れるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩等の日課を組み、希望に添って、出かけられるように支援しています。また、家族と遠方へ外出される事もあります。	デッキを利用した外気浴や事業所周りの散歩は日常的に行われています。地域の方の協力によるみかん狩り等のイベント外出もなされています。	出かける利用者に加えて、外出を億劫がる利用者や嫌いな利用者が喜んで外出できる工夫を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じてお金を所持されており、希望があれば一緒に出かけて買い物等の支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の依頼があれば電話をかけ、電話で話してもらったり、手紙が届いたら返事を書かれるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の間を有効活用し、寝そべてテレビを観たり、畳に座って洗濯物をたたんだり、お茶を飲んだり、自宅の居間を思わせるような空間を楽しめるよう支援しています。	穏やかなリビングの雰囲気を壊さないような配慮がなされています。利用者が散歩で摘んできた花がテーブルにさりげなく置かれ、利用者にとって主体的な居心地の良さが感じられます。また、スタッフの記録場所にも目立たない工夫が感じられます。	特定の決まったスタッフだけではなく、若いスタッフにも参画してもらうことで、人材の育成に繋がるのではないのでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の居場所を確保し、自分なりに自由に過ごされたり、利用者同士の語らいには食堂にきて過ごされています。また、個人の部屋を訪問し、お喋りをして過ごされる事もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や好みの物を持ち込まれたりして、本人が好きなような使い方をされています。	ぬいぐるみやタンス、本人らしさを大切にする支援がなされています。	自分の意思で意向を表現できなくなった時に、どのような「居心地」の良い居室にするのかの工夫を期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗を招かないような環境づくりを心がけ、自立した生活が送れるよう貼り紙での工夫をしています。		